增補江戸咄

五

和書門
類 二三七七四
號 一
函 六
架 九
冊 六

内閣文庫
和書
類 二三七七四
號 一
冊 六
函 五
架 五

内閣文庫
番號 和 23774
冊數 6 (5)
函號 174 54

国立公文書館
National Archives of Japan

增補江戸砂第八巻目録

第一　浅草乃観音堂
第二　同大六天
第三　同福寺
第四　同文殊院　今ハ岩清水ト
第五　同弘法堂
第六　浅草寺観音
第七　明王院乃姫ヶ池
第八　今戸山附まつ山乃事
第九　穂泉寺附物見山
第十　角田川木母寺
第十一　牛御前

浅草文庫
花廼家文庫

第十二　業平天神
第十三　法恩寺
第十四　東本願寺
第十五　三十三間堂附矢数の事
第十六　神田山隨遊院
第十七　大雄山海禪寺
第十八　江小山法乃寺
第十九　昊山寺附法檀林
第二十　東光院乃茅所
第廿一　日福寺附一遍上人
第廿二　指月寺

拾補江戸名所卷第五

第一　三十三間廻廳堂

乃ふ八文字第名人沙門さとて。篇笠門とともあへり往に
法華宗ゆへつゝゝ。門とバかゝ町二町ゆゝきて。凡
町也。乃の方に十王堂あり。二尺三尺ゆゝ。ゆゝ。又
間廻廳堂あり。寶孤仏りゆく。中ゆゝハ間廻廳大王。乃ゝ地蔵菩
右ふ三金川乃老婆也。ゆ堂乃左ふ不動堂ゆゝ。
ゆ間廻廳大王とゆ八人記て五七日の業罪をゆゝさゝう。浄玻璃
乃鏡。擅次幢法ゆ幢法ゆ言ゆゝ。俱生神。司命司録神。同
寶ふゆゝ。元生の罪乃閻魔王とゆゝう。地蔵ハ元。閻
魔王の本地也。ゆ地の大也ハ宋和端數のおと也。寶
化の大菩ハ忠也法國乃ゝとゆゝ。ゆ京乃方俱

ゆゑ。衆生利益の苦巧也。姫は又兒あの山乃藤。三途川乃
わたり。衣紙樹乃ことく。衆人衣をこそぎとり。木の
枝にかけるなり。是閻魔王の妹也。奪衣婆と名付る也。仰ふ
とうもとうとも。衆生をふ悪鬼乃心なく。放逸ゆへ一生
とる。衆業ふひるもとく寄て。悪鬼のいるさまとあらはす。又十王とは。第三年ら
れて。悪鬼の変化として。十大王の。もとに。亡者をとらけとりて
衆科の罪とをとる。十王は秦廣王。初江王。宗
帝王。五官王。閻魔王。変成王。泰山王。平等王。都市王。轉
輪王。是也。十三仏と云は。不動。釈迦。文殊。普賢。地蔵。弥勒
薬師。観音。勢至。阿弥陀。阿閦。大日。虚空蔵。是也
ゆゑに。日蓮宗は。題目ばかり唱へ。

三途川の婆。ゆゑ。ふは三やうにて。ふとして。婆の男
人乃物とれば。衆ゆゑ。ぶおぐれたる。ハ何とも。ゆゑ。

第二

大六天

そもそもとは。天王町。片町。と通る。森田町に行は。変に
大六天乃社。是。八角基。とは。八百余年に成。と。古老
の云つたへ乃ものとも。ゆゑ。孫也。とも。伝乃。芸乱ふ。
うゑ。ゑ。とも。神。は二月乃。也。大六天。とは。麻醯首羅
王乃。是。像。ゆゑ。此天は。欲界。大六乃。他化自在天乃。あるゆゑ
ゆゑ。二月八日。月乃形。と。択。九頭の大牛に。あて。神通自
在。変化。自分の威。とあらは。三千世界に。発行。欲色
二界の中。弓禅。と。俗。大楽。金剛の果報。とうけ。三千界
乃。あらゆる。衆生。我。ゆゑ。と思。ふ。行。ゆ。

寺ハ源ノ大元明王ヒトリ在也
大八郎ヒ地ノ車ヒいんだ六年ごろまけいこの頃れ

第三

西福寺

そこをもく。強盗町の。西福寺へまつろう。南寺ハ昔
東照権現様。強府の山城
心蓮社貞誉上人頼故を。山内侯の信ゝて。元基
ゝ西の寺也。山ゝ名ハ安国ハ乃山。他猿猴鬼の乃ご
みゝゝ也。後ハ江府ふうつゝ。今山ゝ上ゝ
也。毎ゝ天ゝとゝ。強寺ゝ寺の猿猴屋敷
芳の林。猿乃強頭ハ寺ゝ
しゝの奥ゝとゝ
ゝ系の雲ゝ

第四　文殊院

それよりまた文殊院へ参りぬ。此寺は三井寺の末にて、天台宗の方乃所なるべし。元禄六年の比、ちり来の宗門改水とうさせられし時、破院となりぬ。

法乃師の跡のあらぬ法乃水　今もたゆまぬ志なるか

第五　弱耳堂

寛文四年、弱耳堂、小橋の東の方に移し、弱耳堂の社を中ほどにすえ、弱耳堂の門ばかりを元の所に残せり。寛文八年、僧業出て門ばかりを元の所に残せり。

たんたんへゆうぜんとのぶつのとぶつ

弱耳堂は、朱雀院の御宇、天暦五年に、安房乃国守平村上雅の娘、馬頭観音の霊験あらたなるを、前より馬を作りて、弱耳堂と云。梵音海潮乃ひびきは、淀川の波ふるあしの音、業障のちりは、弱耳堂の利生あらたなるべし。乾坤ひろしといへども、完づくしの樹よりなし。びんぼうにして、孫傷のなげきあり。人間にてうぐいしゝ分をさとりて、心をあらためて、淀川の本堂へ参る也。

法乃師の跡のあらぬ法乃水　今もたゆまぬ志なるか

第六　清水寺の觀世音

相模第一の寺堂へ向て。右の方に牧あり。それより町山の
麓を天町とゝ云て。そこ〳〵人家多し。奥州へ乃海道ゆく。千
寿へ行くゝ道筋也。是より第二町とて宮ゝ方へゆく
狩よ。是より第三町とて富ゝ川へ行くゝ道筋の左右を
廣小路也。相つゝと向へいるに。一町余右ふ方合十三
ケ所あり。狩ゝ二まつよりこゝ向へ入て左ふ狩ると
つゝ。右ふ方の道の傍に又ひぐらに山王の社。海道を
向て。右ふ方つゝ多つゝ傍に堂にわらら
て。觀世音を祭り。南を大慈大悲の觀世音とゝ
申奉る。前のけ清水とゝ云ふ。相つゝ向ひ〳〵に。堂邊
けてゝ中に四面とゝ云ふ。

笑へ。ねぶとびとげちらとゝ狩馬。馬うまとゝ向
傍の中に。行とゝ。くゝ。れ乃人ふ乃ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。

みくつのぎとひ屋きとして。らをそつあを書つぎけもバ
そもとるとひてこけあのぎるしめてぐあもこわくるゆも
といそうかあをとくをあるの事ゆやかつぎとハあり(ぐ)
羅浮氏の携まもくろ。弟社考めと絵馬乃弟の事
ちくられくろ。山絵馬のそどくにおから絵ハ昔もあるう
柿山観世音の縁起をとくく乃ちくいかくひ源第川
とぐ。あ戸川ととて。漢父のあつまあ。絵ふ推古天皇
乃四字よ。進中居と云人ものあやまれる事ゆそ山あ
ゑ流人とめてのつぐ。彼ぐらふふ。桂徳。演成武成とて
兄弟三人の者。三人乃ゆをもちひて。山あへ乃ものうんや
づくくもあどうとして。三後乃いとるとうに。推古ホ
六戊子年三月十八日の事ありに。兄弟三人のりよあをを

ちちふふさ(ふ)して。戸川乃沖ふこさどして。網をおろ
くくあ。奥ふふのしあのこあとちぎめぐうあくをおろて
けあよ。せあとあやさ拍かくあぬ。ぐにおとひ月の釈
新ふくてやつまバ。光明かくあくだる。観音の佛祢也
兄弟三人ちにおどろき。あを金て祀ーかうに新
あをちつくひて。安置せしぐ。山あの第かうう
十人ともひて来う。彼第あ乃金久の光さしけを
くて。孫よくあ乃第あ。光明くやくあやけ
也とて。おぐくちまバ。ものとくらんかんの仏ぐ。三を
いかあう人のこさやんとあ。あ乃中くくあ彼三人のまた
まうて。あまくくのやうとて。彼うあまバ。ものとて
とのくやをひとのみくぐうの山堂をれくてけあよ

国立公文書館
National Archives of Japan

今にいたりて見ぬ三人なり。こゝ所の護法と宮。又十人乃宮
かりと。十社権現といふひとつ。神社。神代と。第五を。
天居を。一乃権現と。中古
○若狭天皇。大化元年に。勝海上人此地をとりて。寺物し
告かりし。神くらをとりこ。
○朱雀院。天暦八年に。安房守平公雅。観音
に初りて。本社を海岸し。国の守ふりて。官位をく。
しうで。ひとりぶ仲の。
仏堂を。造。塔を。作る。流坊を。造る。又。宝の塔を。作
一所乃。島陸を。造りて。
ひとりて。ハ人。明乃初ぶ
福寿海。

第七

明王院乃姫池

中堂を。右の方に。門。
中に。明王院と。
人家。
多。

地震。あり。ハ。
塔破壊。
神田。
村乃軍。
代。
仏像。

明王院乃姫池

観世音。
中堂。右の方に。門。坊舎。
中に。明王院と。
人家。
多。

あるとき姫の父母をわく住ろう。法華の行人よ家と
し。石の柱とあるをかけける時ふとこゝろを大石をやとし。頭を
うちくだきあらく。衣物を剥ぬ〳〵ごとひたおとそを
流を救九百九十九人にはばび。今一人ゆく人よぬぬぐを知ふ
法華の観世音。菩ろうに八角を変じを弥ひく。第を吹
せるふを。その笛の音をとをけど
同八月十五夜の姫あ八姫を。家ろう。法華ひとり屋れ西
八幡の音を。ひとりの旅人やて姫ぐに八四ひるぐうもやど
あるさまの家として。実ふやどしうあるれうぐ旅人と一人
とをあり。彼石の柱とあるくぐを。姫人心ふ見ふ柱よ
彼笛のひゝをあるとをひがひとり屋の事ゆく
やどろん。柱とをあるの柱くあゆ屋ゆをころ八

とのくうほ八ゆを。をなてやて行やゝ人てうゝひ八に
ゝよかけてあるのくぐ。ゆびのてとゝをゆどのとゝ大石と
おゝ八ゝをかそろけを。旅人きゝをとゝ。命を
ゝをそうてそをとゝあるに。ゆゝをくゆけゆきゝがゆゝ。
姫けを八ひとりの音ふて。をとあるくて。が海ゆ行ん
ゝれぐ。夏中に音ふきゝゝうて。猟八色山法華の観音迦
法華にゝをんゝと信ゝをあよ。かく苦の笛を吹て。姫を
とをゝいゝを。いゝく信ゝゝゝとゝてゝきけをゝにうせゝあふ
旅人美さあゝるに。ゝをゝゝんゝゝんゝゝに海けゝこをゝゝゝ
を。ゝをゝ法舞明天皇乃ゝゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
彼姫ゝあくゝゝゝゝうけゝとゝてゝゝくにおゝんゝをゝあゝんふ
ゝゝめ。ひとゝゝちゝゝとゝに家ゝ

姫ぶたのちごのちやうぞくれひぐちさとんて。家とうちらうて
くさぐさうんと思ひ。ちとにいさうとそなつひ。彼姫がひとめ
ひ見のゆうにあうくくうへあうとそこに四まとひて。彼ちごの
かけ子あへ思びへくそのぐろうぐうくくくくくまで。お見
とちうさんとなりひ。他のうをおくくうろ。見ハとうとうそん。
うんの化身あもバづくへかうせ浅ひうんひとめハうんぐんとぬ
てくくそうちうぐちとるまくうちとそれとうるに見ハあぐで
我姫。ふあうちうぐんめうちがくあうげあさうぐあもど
どもあやこあひきうのあげさうふくかあくさたんぐくやあこ
うんひ池へ分とあげうやくとうや。そきちうきん大ぐやこうう
人とれうちとそう。おびくくうもバ一社乃神ふいとひてその
恵見とあぐくくくくく

観音のうしろにあく。今彩山へ行ぶつをびし。今彩山
のうらの名ふ。多人今彩山とゐ行とうや。橋をてくの
山号を同名也。実に聖天宮をおぶ。神社へ彩紙ゆ
又更ぬあのさのうしろにしてあ行とちやうしげ物やさき
の大らんとゐ。たをたうの物をしてさゐ也。ふの人雲山へ
東の方ふ。流系川。牛頭彩田とゐんゆふ。あハ大乃也。梅又
ぶ山とぶ。ぶうハ雲ちのとゐて。武蔵国の名所也。紀列ふを
同名ふ。ゐ也。彩物撰。毋基法師乃ゐうう
雲ちのゆふ。ふ。ゐ。ゐ。ゐ

山岳めぐり伯合て同乃ましぐさと四ゆくさくせーと。出のかふ沢乃ぐくるふとぷふとくくて

金剛山で。同乃せんを約束。はまとまろうれぷをきこえる

第九

櫻泉寺 并 姉倉山

そもそもこの山ハ。櫻泉寺ふつくくち。富寺ハ行基菩薩の御建立とあり。実ハ学家和尚の開基にして。正法眼蔵の心印をひらく。尚この一路ハ。まのれ実有の富士と掃ひ言下乃一喝ハ。美学乃魔縁を驚かし。苦業の家乃前ハ。一千一百の剣とくくして。仏心禅師と号す。座禅し給ひしまのくくとしハ。釈三蓋四の名ハ。文字言句を。くくまとくくう。寺門ふふ兼ハ乃石塔并軍配団ふ是姉倉山ハ。櫻泉寺と云事をくくべ。寛文ハ。第九乃巻と云

[illegible]の名ばかりなれども、[illegible]なれど、
妙、亀ハ梅ヶ丸乃母の法名乃ゆゑ、とうやぶ人ハ[illegible]、国[illegible]と
乃里の遊女花よといふ者、吉田乃かぶれにおれ[illegible]みれ扇[illegible]
分とてあさぐ面れよ。梅ヶ丸と[illegible]ハ[illegible]
と[illegible]ハ[illegible]人也。ひ[illegible]花よう[illegible]ぶ[illegible]
亜の[illegible]人[illegible]ろう。かぶよめ[illegible]
かぶの書[illegible]。梅ヶ丸と[illegible]
[illegible]。かぶにハ[illegible]。梅ヶ丸ハ[illegible]。年月と
[illegible]。梅ヶ丸ハ[illegible]。奥州乃人商人梅ヶ丸とかどひて面乃
角田川[illegible]。梅ヶ丸の[illegible]
今[illegible]や一[illegible]ひ[illegible]。角田川乃[illegible]
[illegible]。[illegible]。梅ヶ丸ハ[illegible]

くあり[illegible]。今[illegible]乃時、我ハ[illegible]川、吉田乃かぶ[illegible]。梅ヶ丸と
いふ[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。梅ヶ丸ハ[illegible]。
角田川[illegible]。三月十五日一周忌ハ[illegible]
[illegible]。[illegible]人の[illegible]
[illegible]。[illegible]人[illegible]
[illegible]。[illegible]
梅ヶ丸の[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]

屋つきさてゝ。ぐまこゝろみて拾ひ。うゝくんとやもしまん
あれおとそさゝのぞきさんらくで。れ物乱のうへ。梅ろ
丸のもとゞ。池れに移りて月のゆるゆるあゝとやもれ山の影かゝ
こゝを。心もこゝろまてゆりしでやらいてゞいまゝ波よ影へてむ
月ゝくゆゆゆ。おろ。をさゝめども。踏ゝさあつまり綱と南
うあげゝ山ゞ。ゞくやこゝどきれてゝこゝとバ。塀ようさあんゝこゝ
雲ゝゝて。ゆ。毒雲ゝくんゞ。月よ。ゆ。毒の山新ゝ。寝ゝて
祝人ふゝゞゝゞゝゞゝゝて。彼池と続ゞ池とゝ仏体とん
池ゆも。鳴ゝて。ゆ。毒ゝ。と。ゆ。天ふゝゝゝゝゝゝゝ

第十

角田川乃木母寺

ゆもゝ月ゝくゝうゝ世ゝちゝにまゞゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

乃ゞゝゝとゝゝてゝよ。あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

くちとはくとあるて。梅へ向くぱいわをうつ北名あく紙へ
何ふ。蛤を煙ふもろとうや。梅あるるあらてがれく。梅若丸
の墓ちとぷ。れ柳。むーー梅らうもてくぷ又別の墓と梅を
ぬ。三月十六日八幡日ゆくぷうるけ書駿遠信親縁ぷ山寺
の名号と。東毋寺と号て。不動の名僧也。住人家う
ゆーで。むーーぬるとぷつくぷ。ぷとーー。あとーー詩と俗と
て。一奥ちと高地也　狗軍家わくーー出陣ぬーーゆとれよ
ぷ家屋あるゆぷぷとぷるの山東と。道ちて。ぷ書れ向
書ちと三安毛ーーなるぷ多めくーーと世の中ぷ。足紙書ちとん
ぷるぷーー。むーーへちとの人の門ぷめて向ますと。情ちとぬ
あづーーぷびちの名ぷーーぷ。生ぷとちぷ。
ぬあづちのてとぷ。沼ぷくきくーーと高ぷ居ひて。道の第

第十一　牛御前

第の第第とちぷ人ちぷ山ーーやと。思ぷ山ぷめーーきとーーと世ーーと
今の日の中ぷ人ぷ地ーて。洞ぷ山ーーー

おくるる。和漢ゆもひろくてらも法人のどうでらの牛ぶ。ごまとめぐ守りくるん

第十二　業平天神

そもそもこれ摂南へ行ば。業平天神の社ぞ。又ありひ〳〵堀とて堀もまた。あるを業平村とぞ。橋ふりひ〳〵橋といひて。天神の社のそばにまた。牛馬の古先のこらあり。ぶ。ぶ。ぶ

人ひとりをゆるして行ひとりとゝ。又は条大納言定房卿入道
乃第十四巻に書きて。業平こゝに中将なり。一条院
と犯しまゐんとうの事に。いとゆゑ家をこゝにかくして。後髪をとりやさん
為に。陸奥国の八十島に。おりて。小野小町が髑髏の
秋風のぬくうしけてとあれめく　といふ声の
聞へしかば。業平涙をはらはらとこぼして。
目の前なる。蔦の生ぬさきて。風にもまれて。葉ばかりとなれ
ひゝ。気味あしくひて。下の白をはけく。
小野の小町とは。ゝ。ゝ。と。彼髑髏
に。ものいふ。小野小町が事。さぞう
今も石塔あり。小野小町は犯人なりとて。陸奥国にて狂死

事ともあり。二条の后と犯し給ふ。
あづまに。あづまに。
そぢにとなりてのがれ
孫にあたりて。
と。
浮世のゆめとなりぬ。
さあらぬ。
ゆめとさめて。
とて。
緑ゆゑ。元慶二年八月廿日辛巳。後日位上右近衛将中将
業平朝臣指寄。左京親王業平卒。時年五十六と。
又。伊勢物語。

[illegible]ばうは今に[illegible]てあるとかやぬ[illegible]八幡に[illegible]ひ[illegible]の[illegible]
実に糸[illegible]ちりて位とのこと[illegible]ぞひそとも[illegible]人[illegible]
[illegible]に[illegible]仮[illegible]
[illegible]くれら[illegible]系[illegible]
[illegible]ぞ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]へ参詣とうや。雖と拝まの時。正月の燈籠と三
[illegible]の花の香ふかいうつくし。多[illegible]あり[illegible]と。天神の内寶殿[illegible]
同さ[illegible]の。神連歌ふ。彼燈とひらくさいとも。聖心院
大中 后宮乃人也 寺乃什物也
一 親雪上人六十三歳の正尊像
一 同上人冥土図図乃時れ筆
一 同上人地獄の数珠 毎
一 同上人地獄図
一 げんぐら きつ 銭大二
一 唐草丸中 中 永楽の銭 文
一 茶瓶 きつ 墨書 [illegible]
聖心院 玄生の唐 聖心院 [illegible]

奥州乃 玄中 [illegible]
弘法大師 地蔵の三部絵 [illegible] 大師 [illegible]
二十五乃菩薩 [illegible]
一 脇指一腰 [illegible]
むう 伊勢乃国 [illegible] 男女 [illegible]
月のまつりさうと歌て。[illegible]神宮へ [illegible]
に [illegible] 猟師 [illegible]
[illegible] 市場 [illegible]
[illegible] 猟 [illegible]
こつぶ [illegible]
さうも [illegible] 神宮の
[illegible] 月 [illegible]
て大 [illegible] 中の [illegible]

まち梅ちやそもそもそれ刀の名をもつて梅とゝなづけて梅ちやそれ
刑部卿平の忠盛朝臣ハ伊勢守をゝめてゝ[illegible]
のゝて。彼獅子とめ[illegible]ハ家富栄て。いやく
たゝとゝまうゝ。忠盛ハ都ゝ[illegible]
ゝく。忠盛ゝて常盛とゝ
枕ないゝ[illegible]に。大地池
[illegible]ゝ。彼[illegible]
[illegible]ゝて。[illegible]
大地ハ剣よゝゝて。池ゝ
ゝてゝハ。[illegible]
て。大地ゝゝんゝゝ

地ゝてゝとゝ付ゝゝ[illegible]
又ゝゝ[illegible]ハ[illegible]海ゝ
ゝゝ小田とめゝゝ
ゝ時ゝゝて。彼ゝ
ゝゝ[illegible]
蛇と[illegible]
ゝゝゝ[illegible]
ゝゝ[illegible]
今ゝ[illegible]

第十四

東本願寺

ゝゝゝのゝ[illegible]
ゝゝゝ[illegible]

乃物也

東照権現様世の時京都本願寺門跡者仏教如上人より譲り受乃田畑をそなへ寺内寺内冥加上人の門弟と号附

ゆえ上方へ下り給ふ。豊臣太閤の門時に幸門跡教如上人と。敵対なされ給ふ。秀吉公はいくらひとしく。教如上人の門舎弟と。なされ教如上人の門弟安堵

東照権現様

さまバかりゆへ。押籠らるゝ乃ゆへ。門跡ハ家ハ

して。西乃順如上人と。なされ。その門跡ハ六条堀川

乃也。西に。市壹屋敷拝領して。新町と名付て。寺内町

此時より。西東の両本願寺と。

らるゝ。所伝の。ゆえ。

一宇と建立。今ハ六条に本願寺

寺ちう堂ゑ一あんかちう梅まにしまされて。江戸中
乃つ徒と帰化せしめしに。寺内乃坊舎同列ゑのおほ数
ひ。此時ニ年乃間縁とゝ。しかよ寺他と移りおりあり
き。寺院とゝ〳〵せしもてうゝ。梅ちゝくさんんかを
ちゆゝとん〳〵石乃方乃ひさゝの事ハ。ちゝ乃ゑとえて
強行ゝ。光ハうゝ孫乃孫 夫数の物

第十八

三十三ゝ堂附ハ寺乃孫

西乃方の小橋とゝうて。三十三乃堂〳〵ハ。ゑ乃堂乃
柿京都乃三十三間堂ゑ。ちゝハ。ゝ〳〵後名頭流ひとゝの出ゑ
ちゝゆゝく。風流の小笠原川の東に。三十三乃出堂ゑ
一千一体の観音とゝ。ちゝ。流出ゑ流と名付ゝ。ゑ堂億
流の四字。ゝ。ゝ。ゝ

八坂乃者塚ゟ弓と射ぬき、ふさに二十三ヶ所ゟ小屋ゟ
神くそりやめく射神くゝと事とゝ。指矢のさくら
松平下野の守乃家来川淵指図者矢の数八ヶ名作図
村田与四郎也矢数の多めと為ぶるに不及してとゝ
浅野平右衛門者矢数と記して。仏前ゟ通
矢ゟ天下と宮ゟ也矢数覚

一通矢五十一節
一日千七百三十節
一日千七百四十二節
一日千七百十六節
一日千八百五十二節
一日千九百二十一節
一日二千五十四節
一日二千七百八十四節
一日一千八百二十五節
一日三千百五十一節
一日三千七百七十五節
一日三千八百八十三節
一日四千三百十二節
一日五千四千二節
一日五千百九十七節
一日五千九百四十四節
一日六千百五十四節
一日六千三百二十三節

淺野平右衛
藤倉孫九郎
吉田大内義
下村忠右衛
藤倉孫九郎
山田半内

糟谷九郎
枚山三右衛
大橋長義
る山八右衛
枚山三右衛
吉井助之丞
長屋六郎
枚山三右衛
る山八右衛
長屋六郎
る山八右衛
長屋六郎

一日六千三百四十三節

一日六千六百六十六節

一日七千七十七節

一日八千節

一日八千百八十九節

吉見喜太郎

ひの大八郎矢数八。貞享三丙寅年四月廿四日ゟ武蔵の国の矢数の時

京童　巻中に云。西国星野の勘右衛門

星野の勘兵衛

と篇書に云ふ。ゆゑに。弥よ保元の昔八為朝の弓勢にをそれ

和仁大八郎

治暦三年三月ひの日ゟ。東院の内ゟ西八。射改め矢さけ

ゆく。変化のもの共を射ゐる。大切の事八。是に過ぎざる

武家にもそなはれり。今爰に書ち西ぶにをそる

千ゟ観音只一体立給ふ。書のうちのうちにを射給ふ

諸国ゆも書れそけいこまてい。百日ハとしてあ〻ぐ〻ぐ也。
てとをりあるとも。系数の書ハ大ことをりかあるとも也。そ
に数乃ゆ〻ぐとをりてハ。全乃系脚をれ作りて。龍門乃之後
ふ乃ゆ〻ぐ。羅のゆ〻くいをりあ物あぶハ。理ゆ〻ぐをそ〻ぐ。
観世音ハ大悲乃ゆ〻ぐ。智恵の矢をけ〻ぐハ魔の軍を破り
ゆ〻ぐ。山書ゆ〻ぐ。射ゆ〻ぐ。恵ハ千手を。仏を書ゆ〻ぐ。
恵ハ千手。智恵乃矢数を千手を。仏を書ゆ〻ぐ。
数をんふ勝ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。親ハ者
田中数乃流を汲ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。勝利を
拾ゆ〻ぐ。我ハ生ゆ〻ぐ。射義を。
為年を。数術を。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。
数を。一数を。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。

ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。
心ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。
ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。

第十六

幡隨院

そもそもと神田山幡隨院へ。ある。當寺乃名号ハ。彰知恩寺
と也。もとハ神田ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。
元和年中に。智恵白道幡隨意上人の開基ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。
檀林寺。ゆ〻ぐ。十八ケ寺の内也。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。
ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。
九ゆ〻ぐ年正月八日。時年七十四歳。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。
幡隨乃。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。ゆ〻ぐ。

第十七　海禅寺

海禅寺ハ大雄山と称す。大雄山海禅寺についてハ。是ハ桓武天皇六代の後裔平親王将門。総州相馬の郡に住して。第剣を持て一所に朱雀院の御宇。天慶二年に勅命の旨を受て。信濃国善光寺の為に。相模国に建立せしめ給ふ。其後平親王将門。謀反を為して。豊嶋伯耆悪大破ふるびさるゝ。狐のくらもと家と成て。年々月日の移り去るゝ。もうで家と成て。寺の流れ。荒廃に及ぶ。爰に行基菩薩。爰に行て。湯島の辺にあり。いくゝ年を経て。地をうしつめ。ぐうそんをのゝ仏像の名を。東照権現様出世の時。山王と号す。

権現様御参詣。荒廃と聞給へ。名ハ変じて。海禅寺と称ス。

第十八　清水寺

寺号を南へ行て。清水山清水寺也。南寺ハ人王五十三代。淳和天皇の御宇。天長年中に。僧勝雄と称して。天竺流の一流と建立。行基の弟子観音を安置し。世の人自然の霊。国家安全の為。祈願と申伝ふ。清水寺と号す。

坊舎ありて孫仏ふ奇驚くんぞうの御世りるとて年去へ
まり。星霜ありてこのまく天慶地妖くるりてこかりく。御人も色に
ふて。豊路やまとうぶこ。坊舎ふらくをもこうそれたち山のく
寺号流号をこのくうのて。世ふ初人をのうりるに。南代
五世に第乃御とて。義文為法京とくなれば人流よりあ家してくらも
ちくくん利の思ひとのぐもどこうに仏乃心ぎと数朝
みへ多種の妙行とけこあ。夕新みへ釈祐法堂の庫ふ座して
おこるいうて。ところる事なる。仏和乃義に。八自ケ
乃老義。忽仏として事ち仏い。おくとそにをあ多ちをあくり
義文為よ作らてのるるく。我ハ芝高るちをでれあるじ。世ふく
我ちとるふ。仏ぐくく。ハしちとる再真して。仏りあくよふ法
ゆあくんて。義ハおくあくう。御ふくあくあ世真義乃つげ

心明小仏ってこかくて。願ハ為めくくて。さもくく心ふのくあ先て人に
かくる事なる。芝世乃人ふるくん。類ひとるくしゆくくる真義
れとあざくらくくらんすとおくくくる。ふ法文禄年中に
いくくて。法叡山ふ乃ち。正芝場の探彩。豪威僧正にまくく
なりて。義あのるとを作ちる。多ふくくいち乃寺号流号
山号とくて。法山京裏流法ふ寺と号とそ。そ色くるとひくく
大悪善ふ乃月彩ふ。法浄信力のくふやどち。多西自とる
義ふハ。昌作御後の精ふ業とくて。ふくくて千眼の妙ふ。
宗業亦祐猶乃利益とふ。一三十三方て為月ハ等しく
弘誓深如海の彩色とあくくるる御ふ南拓救世のい方法ハ
てくひる。くくくくや
高くくく。高田の山て流ふく義に法ふ寺乃ちくくと

第十九

奚山寺 附諸檀林

そもそも右の方へ行て。奚山寺。そハ大超上人乃開基也。その
こハ湯殿よりとぼ。ゆ殿三ケ寺の四縁とも。山ゆ上へ行つゝ。そ
も奚京十八ケ寺の。檀林乃内めぐりゆ。いつれ有めゆ。世ゆ
かゝる。かくて数年中絶。くるゆよ　南都軍擾ゆ。
こゝ也。ひくぶ也。こゝ也。こゝ也。こゝ也。こゝ也。
こゝ也。ひくぶ也。こゝ也。こゝ也。こゝ也。こゝ也。
檀林ふるゆ也。ゆ也。貞享三丙寅年。檀林ゆ
開山乃大超上人。億也。そ又ゆり檀林ゆ
諸の寺乃ゆ乃ゆ乃奚京十八ケ寺ハいづれも。ゆ也。ゆ
○相州遍倉　天照山光明寺　開山良忠上人　勅号記主禅師
○武州小名川　無量山傳通院　開山酉蓮社了譽聖問上人
○武州江戸
○同浅草　三縁山増上寺　開山大蓮社酉譽聖聰上人
○同永代橋　神田山智学寺　開山幡随意智譽白道上人
○鴻巣　道本山灵巌寺　開山霊巌雄譽松風上人
○九連　水精山勝願寺　開山良忠然阿上人　此山号別ヲ天照山ト云也
○飯田　草地山常福寺　開山盛蓮社了實成阿上人
○生實　壽亀山弘經寺　開山嘆譽良肇上人
○川越　龍澤山大巌寺　開山麻脊蓮社道譽貞把上人
○結城　孤峯山蓮馨寺　開山鎮蓮社感譽存貞上人
○小金　壽亀山弘經寺　開山存把上人
○岩築　佛法山東漸寺　開山經譽愚底上人
○龍山　佛眼山法國寺　開山清巌上人
　　観池山大善寺　開山讃譽言牛秀上人

○浅草寺　　正定山大念寺　　岡山慶岩上人
○新田　　美濃国山大光院　　岡山呑龍上人
○舘林　　紀州南山善導寺　　岡山幡隨上人
○浅草　　霊山寺　　岡山大超上人

右ハ通称ハ仏乗蓮社号。善導寺ハ記さず

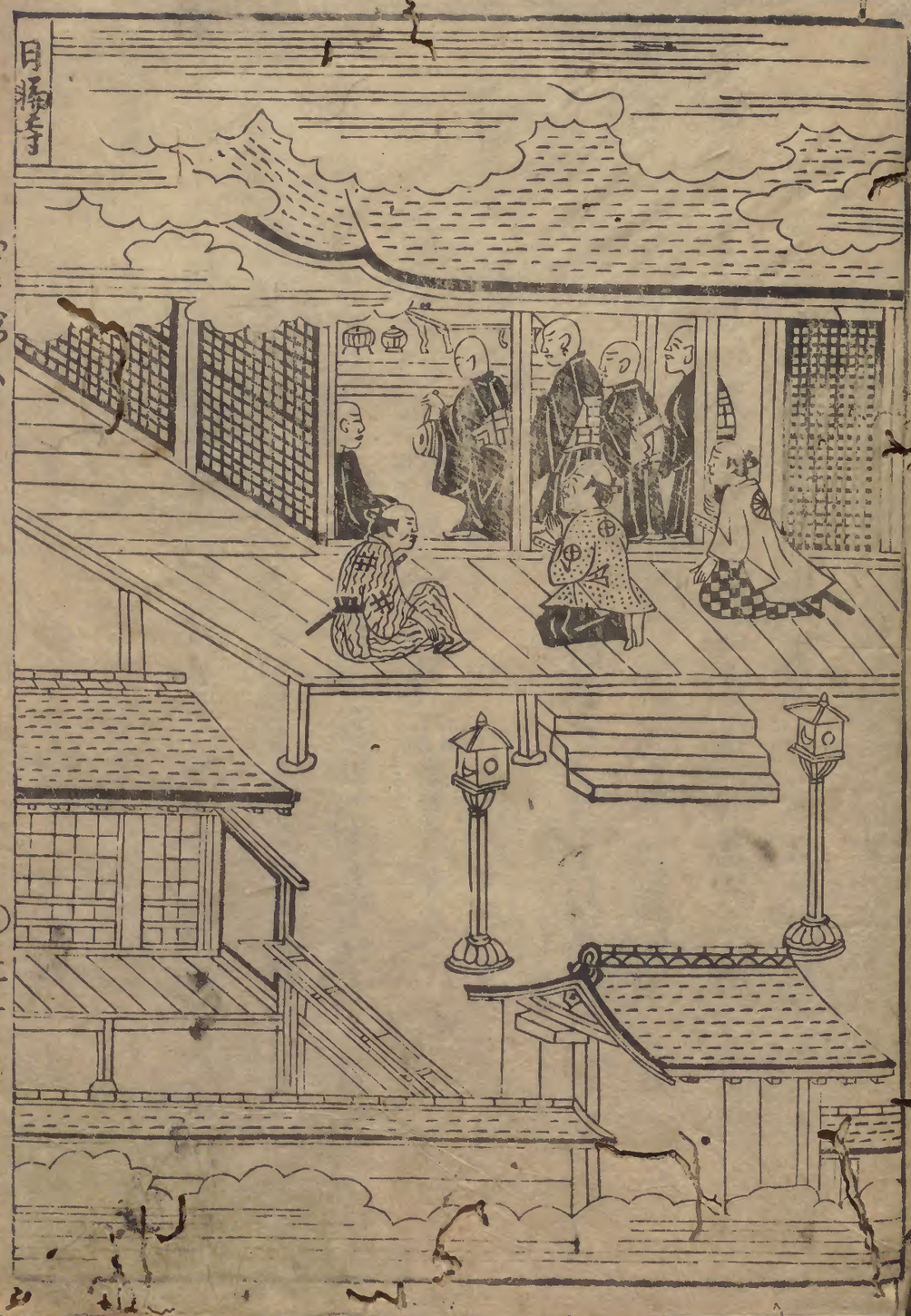
第二十　東光院乃薬師

第廿の医王寺。東光院ハ益宗大師乃第一番の創。歌舞の二教をふひろまる。名所一百八ケ寺の数。寺ハ中ハ春日乃御殿。東方浄瑠璃世界の教主薬師如来の尊像。ハ世界の人ハ皆ハ利生のまもりとあつまりに門よりて。利生のまもりとあつまりに

[illegible]

[illegible]

[illegible]



第廿一

日輪寺 附 一遍上人

日輪寺ハ元時宗也。ゆえに安阿弥仏作の阿弥陀仏像の弥陀如来
を本尊とし、八幡宮ハ其比ハ鎌倉の固めとなり、警衛ありしとぞ
開基ハ建長年間ハ後嵯峨帝の御宇なり。
乃至後鳥羽天皇の御宇に一遍上人と云ひし人ハ伊予国主河野
七郎通廣の子也。建長十一年。十一歳にて家を捨て出家し、
建治二年
熊野に詣し、神勅を受て、信心を修行し、六十万人変定往生
の印札をおさめ、くに名をよひ、ひろめ給ふ。其後遊行乃聖と
代々乃法号を他阿弥陀仏と名付。洛ふ平山ハ高野の新
別乃額を六字の名号に書て、八幡宮式部の元真に与へ
給ふ。元真ハ代々の遊行に対し、きめ乃ごとく、

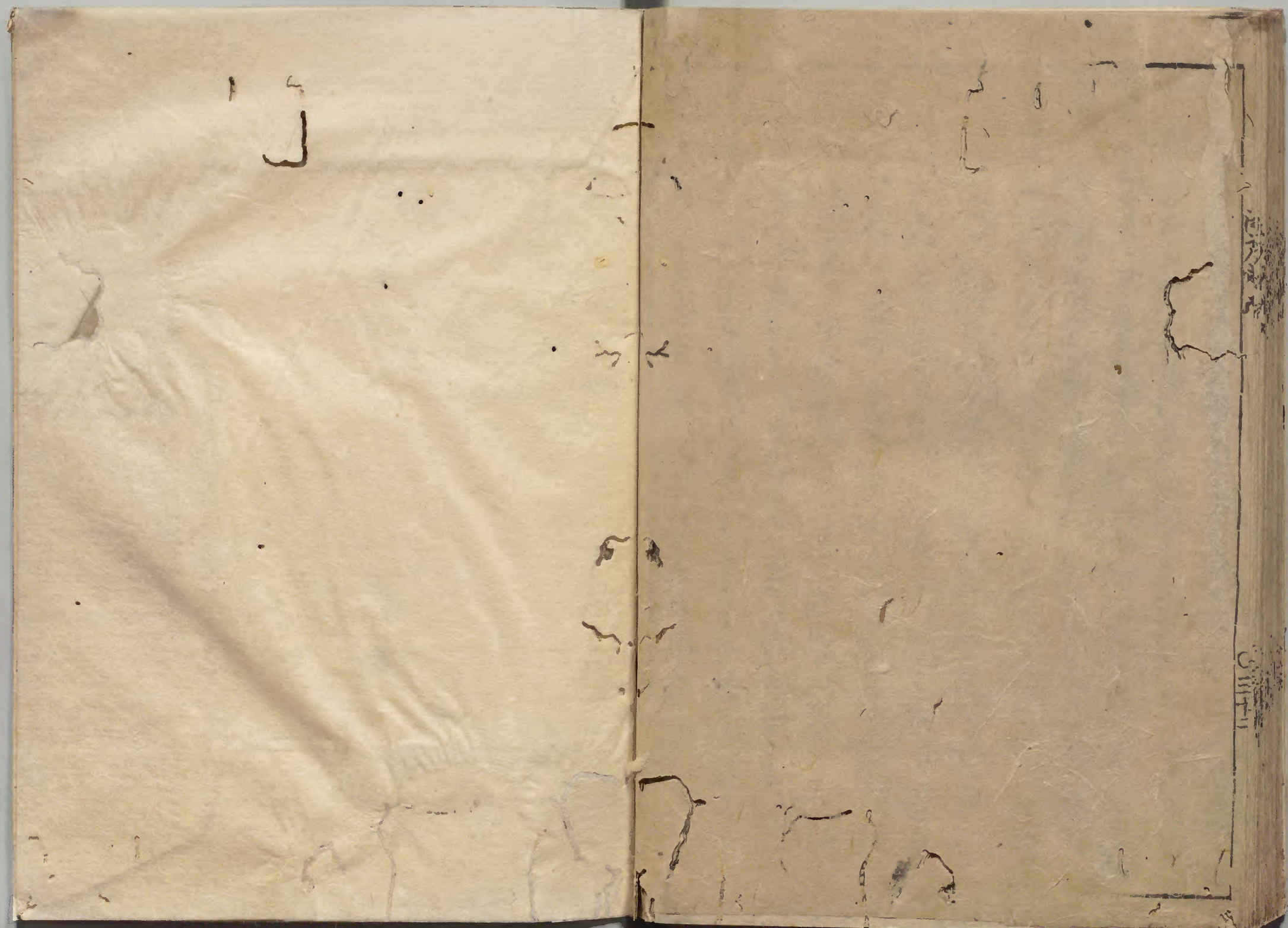
めくらひとりゆうもてに参りあるとぞ
甲今にまでこそ。柳のせいあるとて道ゆく人
ものこと。ぞ。柳の名。柳とくみて名付
おしめるうりあるとこそ。ぞうかふ暑
一遍上人八正應二年八月廿三日ふ年五十一歳にて入寂也

一遍上人ゆかりの毎日梅寺にて乃。金仏の

第廿二　誓願寺

おもふ乃方へ行て。拝て祈るべし。寺ハその東わ後園小田原ふ
見蓮社東巻上人の完基。ぞ。人数乃事ハ
春貞と云僧。武州乃秩父乃。御長三尺の弥陀の彫像
と守身仏乃。南寺の出ぞ。ぞ。乃。毛日乃御
仏ハ孫陽の夫作。寄物乃。宝合也。ぞ。ぞ。

拾めでいとくるとぞ。万字の脇ハ
ぞ。ぞ。ぞ。



国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan